

ひめまつ

72



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ
目次
第七十二号

表紙……長野 亜友未 題字……石川 木魚
校歌 生活目標

グラフ
「学園の四季」「写真部作品」

論説
全人教育で時代を拓く力を……………校長 須賀英之 …… 1

特集1
硬式野球場が完成！…………… 4

特集2
第三体育館、マロニエ建築賞優良賞受賞！…………… 5

特集3
研修旅行報告…………… 6

【サッカー部】ドイツ研修旅行

ドイツ研修旅行

【調理科】京都研修旅行

第三回京都研修旅行記

【オーストラリア語学研修旅行】

オーストラリア語学研修旅行を振り返って

二年二十一組 長谷川 流星

二年二十四組 佐久間 隆二

一年 二組 横堀 咲

憧れの人

宇短附の先生方

最高の担任の先生!!

優しさあふれる先生

熱血!!中嶋先生

鈴木順也先生という男

一年	四組	廣瀬	麻奈実
一年	十四組	亀田	詩織
一年	十九組	清水	菜々子
二年	八組	田中	佑花
二年	十一組	檜原	萌
三年	九組	羽入	己恵

平成二十九年 校内読書感想文コンクール入賞者

心に強く響くもの

校内読書感想文コンクール入賞作品

【第三学年の部】 校長賞

第一位 村山 早紀著「桜風堂ものがたり」を読んで

第二位 有川 浩著「レインツリーの国」を読んで

第三位 服部 まゆみ著「この闇と光」を読んで

【第二学年の部】 校長賞

第一位 萩原 浩著「ストロベリーライフ」を読んで

第二位 マララ・ユスフザイ著「わたしはマララ」を読んで

第三位 百田 尚樹著「カエルの楽園」を読んで

【第一学年の部】 校長賞

第一位 坂井 三郎著「大空のサムライ」を読んで

第二位 夏川 草介著「本を守ろうとする猫の話」を読んで

第三位 佐藤 愛子著「九十歳。何がめでたい」を読んで

三年	一組	八幡	絵織
三年	十七組	河西	こはる
三年	五組	伊藤	朱里
二年	二組	内海	和音
二年	六組	江連	穂果
二年	十五組	橋本	純弥
一年	三組	山口	克哉
一年	一組	大金	裕梨
一年	三組	石野	響子

各種コンクール入賞作品

〔平成二十九年度心の輪を広げる体験作文〕

高校生部門 佳作

一年 二組 下島 輝星

〔栃木県警察本部犯罪被害者支援室主催「命の大切さを学ぶ教室 作文コンクール」〕

最優秀賞（栃木県警察本部長賞）

二年 四組 中村 将也

〔宇都宮税務署「高校生の税に関する作文」〕

宇都宮税務署管内租税教育推進協議会長賞

二年 二組 山口 奈桜

〔平成二十九年年度栃木県「人権に関する作文」〕

最優秀賞

二年 二組 内海 和音

〔第六十一回全国学芸サイエンスコンクール〕

旺文社赤尾好夫記念賞（銅賞）

二年 六組 金谷 紗世子

〔どちの環県民会議「第十回エコポエム」〕

栃木放送賞

三年 七組 坂本 健太郎

エコポエム優秀賞

三年 七組 佐藤 桃花

エコポエム特別賞

二年 六組 真淵 月海

エコポエム特別賞

三年 六組 武石 佳那

エコポエム特別賞

三年 六組 辻森 美帆

あとらんだむ 生徒作品集

〔一年間の反省と二年生になる抱負〕

旧・一年 九組 関 香澄

旧・一年 十四組 渡邊 舞

旧・一年 二十四組 福島 花音

旧・二年 三組 菊池 綾音

旧・二年 十組 猪狩 亮太

旧・二年 二十四組 中村 俊哉

旅行記

【修学旅行】

遠い彼女の記憶を

二年 三組 工藤 瑞生

【一日旅行】

心に決めた一日旅行

一年 三組 宮本 真桜

私が一日旅行で学ぶことができたこと

一年 十二組 福島 駿介

学ぶこと楽しむことができた一日旅行

一年 二十組 安藤 愛夏

最後の一日旅行

二年 一組 秋田 静

一日旅行

二年 九組 上野 結花

友情深まる一日旅行

二年 十一組 檜原 萌

一日旅行

二年 十八組 山谷 咲貴

都会での体験

二年 二十組 長野 亜友未

一日旅行の思い出

二年 二十二組 相田 奈津実

音楽科一日旅行

二年 二十四組 間庭 美咲

わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

委員会・部活動報告

風紀交通安全・図書・美化・茶道・華道・書道・理科・服飾手芸・囲碁将棋・弓道・演劇・写真・吹奏楽・

合唱・硬式野球・女子サッカー・男子サッカー・卓球・水泳・女子バレー・男子バレー・男女硬式テニス・

男子ソフトテニス・女子ソフトテニス・バドミントン・男子バスケット・女子バスケット・柔道・男子剣道・

女子剣道・スポーツチャンバラ・応援団・チアダンス・JRC・インターアクトクラブ・百人一首・

デイベート・パティシエ・軽音楽・イラスト・陸上競技・日本音楽

附属中コーナー 90

この一年間のおもな活躍・クラス紹介・行事紹介・作品集 コンクール入賞作品・校内読書感想文コンクール
入賞作品・一年間の反省と進級にあたっての抱負・写真で見る中学校生活・部活動紹介・立志式記念講演

宇都宮共和大学・宇都宮短期大学コーナー 115

宇都宮共和大学 / シティライフ学部 子ども生活学部
イベント・トピックス・在校生メッセージ・就学支援・スカラシップ
宇都宮短期大学 / 音楽科・人間福祉学科

教育実習生、母校の教壇に 128

家庭 / 文化学園大学 岩渕 真子
音楽 / 宇都宮短期大学 小倉 賛子
理科 / 明星大学 川俣 昌弘

平成二十九年度生徒会報告 132

主な大学合格者数一覧(平成二十四年三月～平成二十九年三月) 138

主な就職内定状況(平成二十九年度) 139

編集後記 140
編集委員長・大桶 美月

校史と校章



新入生～高校生活のはじまり～



入学式
4月

誓いの言葉
～期待に胸が膨らみます～



学園の
四季



ソフトテニス

スポーツ
フェスティバル
6月



バスケットボール



バレーボール



サッカー



卓球

合唱
コンクール
7月



第51回校内合唱コンクール



美しいハーモニー

創立
117周年記念
学校祭
11月

繋げよう未来へ続く伝統のバトン ~Keep going~

須賀学園創立117周年を記念した中学・高校合同の学校祭が11月3日に大勢のお客様をお迎えし、本学園教育会館と須賀栄子記念講堂大ホールにて盛大に行われました。

各科・各クラス・各部ごとに日頃の勉強や練習の成果を披露するとともに、絆を深める1日となったようです。



野外ステージ



宇都宮短期大学創立50周年記念演奏会(11月19日)



野外ステージ



生活教養科(須賀栄子記念講堂大ホール)



調理科



バザーの様子



音楽科によるオペレッタ上演(須賀栄子記念講堂大ホール)



本格的な冬を前に、2年生は修学旅行に出発。現地では、12月とは思えない温暖な気候の中で、さまざまな体験を通して、友情を深めてきました。

修学旅行
in 沖縄
H29.12



エメラルド色の海をバックに!



紅型



郷土料理



沖縄名物ブルーシールアイスクリーム



サトウキビの収穫



イノー観察



美ら海水族館～イルカショー～



やちむん



エイサー



美ら海水族館～大迫力のジンベイザメ～



おきなわワールド



特選『熱狂に集いし観衆たち』

3年4組 齋藤 美月

*
**写真部
作品**

第39回栃木県高等学校文化祭で学校賞を受賞した写真部の入選作品です。



入選『歓声を背に』

3年10組 江俣 拓実



佳作『young fellow』

3年4組 倉成 直佳



佳作『ソラに届け!』

3年4組 山根 由以奈



佳作『たこ焼きいかが〜』

1年1組 水沼 愛実



佳作『イチノイチ』

1年1組 水沼 愛実



佳作『見返り美人』

2年2組 黒須 萌花



奨励賞『我が日常』

1年4組 矢田 正成



奨励賞『秋色』

2年2組 石田 千夏



奨励賞『六人六色』

3年4組 山根 由以奈

論 説

全人教育で時代を拓く力を

校 長 須 賀 英 之



電気自動車・自動運転の急速な普及

今、北京や上海の市街地は昼間でも薄暗い日々が続いています。工場のばい煙や自動車の排気ガスによって大気汚染が深刻です。こうした事態に対して、中国では電気自動車の普及を国家政策として掲げています。世界でも二〇三〇年には新車自動車販売台数の四割が電気自動車となり、自動運転シ



上／大気汚染の様子
左上／T型フォード
左／電気自動車

ステムが標準装備となることでしょう。これまでT型フォード以来一世紀にわたり続いてきたガソリンによるエンジンが、全個体電池や走行中給電システム・モーターに変わろうとしています。自動車は、センサー、AI（人口知能）、パワー半導体などを満載して、動くコンピュータになりつつあるのです。

ソサエティ 5.0

電話も、近年、固定電話から移動体通信（PHS、携帯電話）をへてスマートフォンに一気に変化しました。これからは、インターネット・テレワークにより場所にとらわれない働き方が実現し、フィンテック技術により銀行に行かず自由に資金の決済や運用ができるようになり、高速道路での自動運転により車中で会話や音楽が楽しめるなど、自由な時間が増えることでしょう。趣味や健康、旅行に費やす時間が増えて、現在はまだ無い、様々な新しいサービス産業が生み出されることでしょう。

企業の行動も、製品に改良を加えて付加価値を増しコストダウンを図ることから、ICT技術によってこれまでなかった新しい分野の製品やサービスを創出することに変化していきます。例えば、富士フィルムでは、ここ二十年間に、従来のフィルムやカメラから医療・化粧品関連の高機能材料を扱うヘルスケア企業に変身しました。パナソニックも、テレビから撤退して自動車のリチウムイオン電池が収益の柱になっています。

IoTで人とモノがつながる、第四次産業革命ともいわれる「ソサエティ5.0」の時代です。これまで価値のあった知識や技術が、あつという間に役に立たなくなる、変化の激しい世界に私たちは生きています。

主体的・協働的な学びの必要性

生徒の皆さんには、こうした時代に対応して、一人一人が

自分の個性・能力を磨いて、早いうちからキャリアプランを描いて、人生を前向きに切り拓いていく力が必要です。

中央教育審議会では、新しい学力の三要素として、「知識・技能」に加えて、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度（主体性、多様性、協働性）」が打ち出され、高大接続改革が進行しています。



安西祐一郎先生

私は、中央教育審議会会長の安西祐一郎先生を訪ねて、市ヶ谷にある日本学術振興会のオフィスに伺いました。先生から、「高校の勉強にも、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びが必要です。大人になると、日々、答えのない問題に直面します。ですから、できるだけ早いうちから、こうした事態に対処する思考の訓練が必要です。AIがどんどん発達していきます。その中で人間にしかできない仕事、自分でアイデアを考えて新しいサービスや製品を生み出していくような仕事が求められます。医療や福祉、カウンセリングやコンサルティングなど、知識や技術はもちろん、人間ならではの目利きや技量が必要とされる職業分野で働く人が増えるでしょう。」というお話をいただきました。

「部活動の終了時間の延長」が入試問題に

大学入試センター試験は、二〇二一年一月（現在の中学三年生）から新しい「大学入学共通テスト」に変わります。国語と数学に記述式問題が導入され、英語は、四年の移行期間

を経て二十四年度から、四技能（読む、書く、聞く、話す）をバランスよく判定する英検やGTECなど民間試験に移行する予定です。先行きが予想しづらい世の中では、知識だけでなく、自ら課題を発見し、答えや新しい価値を生み出す力が重要になる、という考えからです。私立大学の一般入試でも、すでにこうした学力の三要素を問う入試問題や英検などの英語資格を重視する入学者選抜が急速に広がっています。

昨年十一月に、共通テストの試行調査（プレテスト）として、本校でも二年生と三年生の一部が国語や数学を受験しました。国語では、「生徒会部活動規約」を題材として、生徒会役員が話し合う場の様子、市内の各高校の部活動終了時間をまとめた表や新聞部の記事を読んで、「部活動の終了時間の延長」についての考えを二文構成で書くという記述式



青高高等学校 生徒会部活動規約

第1条 目的

本校は、本校高等学級生及び生徒の健全な成長を促進し、その個性を伸ばすこと、及び、社会生活に必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

第2条 方針

本校は、教育課程の充実を図り、生徒の個性を伸ばすこと、及び、社会生活に必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

第3条 部活動

本校は、部活動を通じて、生徒の個性を伸ばすこと、及び、社会生活に必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

第4条 部活動の終了時間

本校は、部活動の終了時間を、生徒の個性を伸ばすこと、及び、社会生活に必要な知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

試行調査(抜粋)

問題がありました。設問には、「一文目は、『確かに』という書き出しで具体的な根拠を二点挙げて、基本的な立場を示すこと。二文目は、『しかし』という書き出しで、部活動の終了時間を延長するという提案がどのように判断される可能性があるか、具体的な根拠と併せて示すこと。」とありました。

人間形成の教育の真価

複数の資料を用いて、場面を的確に読み取る力、設問の条件として示された目的に応じて思考したことを表現する力を問う—こうした資質・能力は、国語に限らず、数学や理科・社会などの勉強も必要で、特定の教科にとどまらず様々な教科を通じて育まれるものだと思います。さらに、クラスメイ卜や先輩後輩との様々な人間関係や先生方との人間的な触れ合いの中で、切磋琢磨されてはじめて身につくものと言えます。

須賀栄子先生は、二十七歳の若さで次代を担う立派な人材を育てるため本校を創立し、教科指導と生活指導を両輪に、全人教育（人間形成の教育）の実践のために人生を捧げました。この建学の精神は、一世紀を超えて私たちに脈々と受け継がれています。

生徒の皆さんには、こうした伝統をしっかり受け継いで、明るく楽しい学園生活の中で、「一人は一校を代表する」自信と誇りをもって、新しい時代を拓く自分を磨いてほしいと願っています。

硬式野球場が完成!

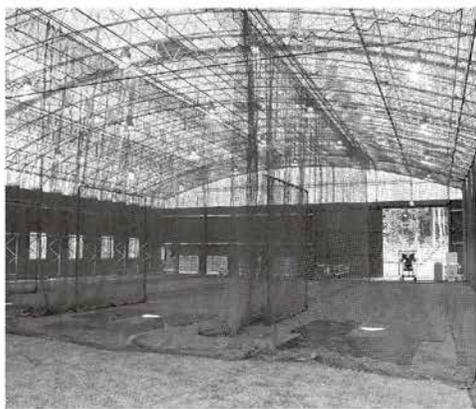


六月三十日(金)、須賀学園第四グラウンドとなる野球場の竣工式が行われました。

宇短大・共和大の長坂キャンパスの西側、飯田町の五ヘクタールの広大な敷地には、全面人工芝(両翼九十八メートル、中堅百二十二メートル)の野球場の他、雨天練習場、サブグラウンド3面、部室等も設置されています。

神事・記念植樹の後、第九十九回全国高等学校野球選手権栃木大会の開会式で大会歌「栄冠は君に輝く」の独唱者に選ばれた音楽科三年大野和奏さんの歌声が響き渡ると、いよいよ野球場のお披露目会の開幕です。

始球式では校長先生が見事なストレートを投球して、会場は大きな拍手に包まれました。続いて、野球部員によるシートノックが行われた後、応援団・チアダンス部によるエールが送られる中、部員たちは「甲子園へ」という決意を新たにしようです。



特集
2

第三体育館、マロニエ建築賞優良賞受賞！



昨年完成し、体育の授業や部活動をより充実したものにしてきている第三体育館が、今年度の「栃木県マロニエ建築賞」の優良賞を受賞しました。

この賞は、「美しい景観に配慮したまちづくりに対する県民の意識を高め、建築活動の活性化を図ること」を目的として、平成元年度に創設された賞で、栃木県、栃木県建築士会等、七団体の共催により実施されているものです。

第三体育館は、本校舎や第一体育館と同様、レンガ張りの重厚な趣ながら、建物下部に大きく取られたガラス張りの面によって光や風を通す開放的な雰囲気も備えられ、内部に設えられた柔道場、バトミントンコート、ダンススタジオの生徒の生き生きとした練習風景がうかがえるのが特徴です。

今回、「既存建築群との関係を重視した街並みのデザインに配慮し、明快な架構形式と空間デザイン、光環境デザインが高度に融合された建築物（作品評より）」と認められ、受賞に至った第三体育館。私たちの練習にもいっそう力が入ります。





ドイツ研修旅行

情報商業科

二年二十一組 長谷川 流星

僕は前年度の冬、サッカー部でドイツに遠征に行きました。その一週間でサッカーはもちろんのこと、外国の生活や文化に触れ、多くのことを学びました。中でも特に印象に残っているのはケルン大聖堂です。文化遺産にも登録されているこの建物はとても迫力がありました。またドイツの街並も日本とはまったく違い、石造りの建物が多く目立ちました。

ですがやはり一番印象に残っているのはサッカーのことです。レヴァークーゼンのユースチームとの試合は大人になっても忘れることはできないと思います。ボールに対する集中力、力強さで世界のトップレベルに近い相手と試合できたことはとても良い経験になりました。このような貴重な経験をする事ができたのも、先生と保護者の方々のおかげです。ありがとうございました。



第三回京都研修旅行記

調理科

二年二十四組 佐久間 隆二

研修を終えて改めて私たちは世界で一番幸せな高校生だな、と実感しました。

私は京都研修旅行に参加し、実際に一流の技術やサービスを見るまで、自分の目指す調理師像がはつきりとしていっていませんでしたが、四日間のうちに数々の一流の料亭や伝統芸能を学び、味わい、体感してみてはつきりと思い描けるようになりました。

京都には茶道、華道、染色と和食の一流の技術があります。茶道を体験した大鴨茶寮では、薄茶と美味しいお菓子を茶室の中で正座でいただきました。次に染色体験で桜の皮から抽出した染液に何度もつけ込み色を付けました。次に陶芸体験もしました。ここでは京焼とそれに昔使われていた大きな窯を見ました。

この四日間のうちに菊乃井、岡崎つる家、ポルドー、HANA A 吉兆、瓢亭で食事をしていただきました。中でも私は岡崎つる家でいただいた料理が一番感動しました。伝統的な和食の素材の味を生かす繊





細な味つけと鮮やかな盛りつけを見て、こんな技術を自分も身につけたいと思ったからです。

私は今回の研修旅行を終えて、この「幸せ」を味つけに、皆さんに美味しい料理を届けたいと強く決意しています。

オーストラリア語学研修旅行 ● 八月八日～十七日

オーストラリア語学研修旅行を振り返って

普通科特別選抜コース

一年二組 横堀 咲

八月八日から九日間、中学三年生から高校二年生までの三十名で語学研修旅行に参加しました。参加者のそれぞれが期待と緊張を胸に出発。空港に到着後、ブリスベン市内を巡り、街並みをマウントクーサーから一望し、オーストラリア固有の動物が集まる動物園ローンパインコアラサンクチュアリを散策しました。その後、いよいよホストファ

ミリーの待つトゥーンバへの移動です。到着した後、各自ホストファミリーと帰宅し、自己紹介をし合い親睦を深めました。翌日からは、ハリストタウン州立高校へ通学。バディたちは私たちにとても親切でたくさんサポートしてくれました。また、談笑する中で、共通の趣味を発見したりと、打ち解けることもできました。また、休み時間や体育の時間にスポーツをしました。これは言語と異なり言葉の壁がないため、より一層親睦を深められたと思います。その他にも休日の二日間はホストファミリーと共に過ごしました。私は、ホストマザーと買い物に出かけ、その後は映画を鑑賞しました。

翌日は、ホストマザーの通う教会の礼拝へ参加した後、友人と日本料理を作り、ホストマザーたちに振る舞いました。その二日後、登校前にホストファミリーとお別れをし、学校でもバディやその友人、先生方とパーティーを楽しみ、修了証授与の後別れを惜しみました。

この研修旅行を通して、改めて英語の必要性を感じました。そして、英語への考え方も変わりました。参加する前は経験の量が重要だと考えていました。しかし、経験よりも積極性が重要であることを実感したのです。自分から話しかけることや、相手の話に反応することは積極性がありさえすれば容易ですが、私にとってはこれが一番の課題でした。これからは、この経験を通して英語の勉強に一層励み、日常のたくさんの方で積極性を身につけたいと思います。そして、将来もこの経験を基に、様々なことに挑戦していきたいと思えます。





◆ ◆ 校史と校章 ◆ ◆

須賀学園は、昨年11月3日で創立117周年の記念日を迎えましたが、11月15日には宇都宮短期大学創立50周年の記念式典や演奏会、大学祭が開催され、本学園の教育実践の全容を広く内外に示すことができました。

思えば、本学園は、明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、現在の宇都宮短期大学附属高等学校となりました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代校長の須賀淳先生(須賀学園理事長)です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、宇都宮共和大学の開学、宇都宮短期大学の学科増設、須賀学園教育会館および第2グラウンドの新設と、学園を大きく発展されました。

そして、現在、平成27年4月に第4代校長に就任なさった須賀英之先生のもと、第3体育館と硬式野球場が新設されました。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉(本誌の巻頭を参照)の意味は、本校生徒の一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育(人間形成の教育)」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」の文字を3個組み合わせ、図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その背に負って、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜からデザインして第2代校長の須賀友正先生が校章と定められたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしており、いかにも清潔な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

高文祭写真展 **入選**



cheer up
1年1組 水沼 愛実